

各地の話題 大 衡 村

2025年3月21日号掲載



「ひとめぼれ」生誕 35 年広く定着～村の故・松永さん 開発に尽力

「イネの品種「ひとめぼれ」は平成3年に宮城県古川農業試験場で生まれ、誕生から来年で35年となる。平成5年の大冷害を機に、冷害に強く良食味で収量も見込める品種として広く作付けされるようになった。当時は、長く宮城米の代表であった「ササニシキ」との食味の違いから人気が出なかったが、今では全国で広く食される宮城米の看板品種である。

「ひとめぼれ」を開発した研究員の中に大衡村駒場(こまば)地区出身の故松永(まつなが)和久(かずひさ)さんがいる。宮城県職員として水稻の品種開発に長く携わり、古川農業試験場長も務めた。昭和62年には中国雲南省で日中共同研究に従事し、標高2,140mの高地における耐冷性品種の育成で成果を上げた。県内でも、水稻の新たな耐冷性検定技術「恒温深水法」を開発し、コシヒカリと初星を交配した中生品種で耐冷性が強く食味も良い「ひとめぼれ」を開発した。また、温室で水稻を年4作栽培する世代促進栽培体系を作り上げた。これらの功績により平成20年には国の農業技術功労者表彰を受賞している。

松永和久さん（提供元 農業協同組合新聞）



【記事提供】 大衡村農業委員会